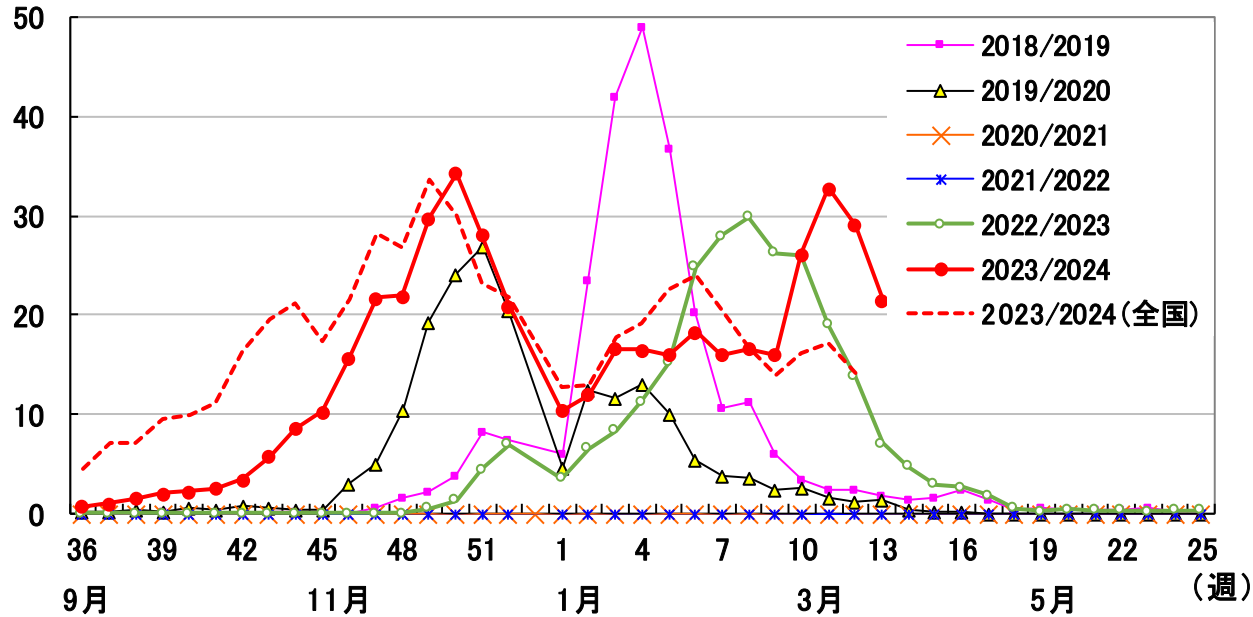


インフルエンザの発生状況(富山県)

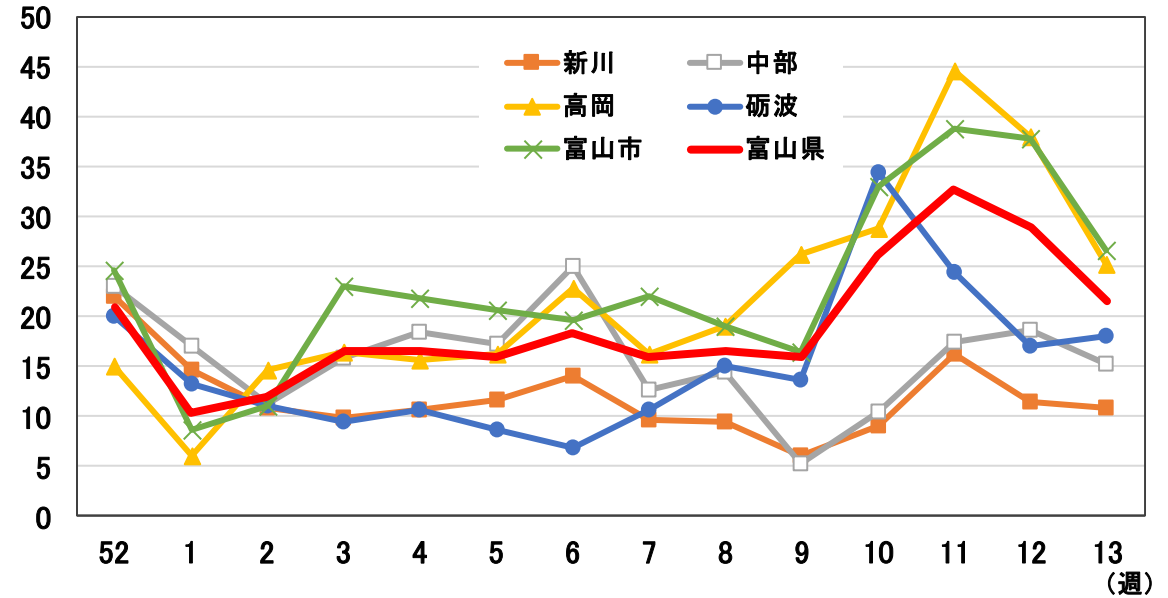
【第13週(2024/3/25~3/31) 感染症発生動向調査速報値 (2024/4/3時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数(図1)は今週(第13週) **21.54**人/定点となり、先週(29.04人/定点)から減少した。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、砺波管内を除くすべての管内で先週から減少または横ばいであった。

図3. 年代別割合(富山県、第13週)

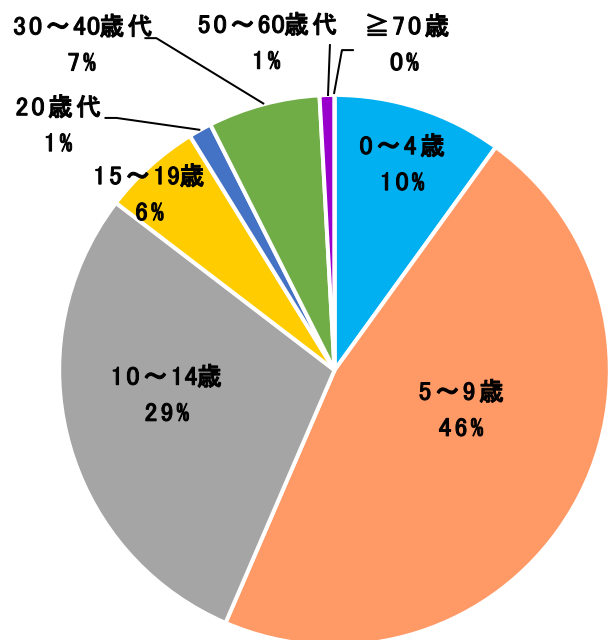
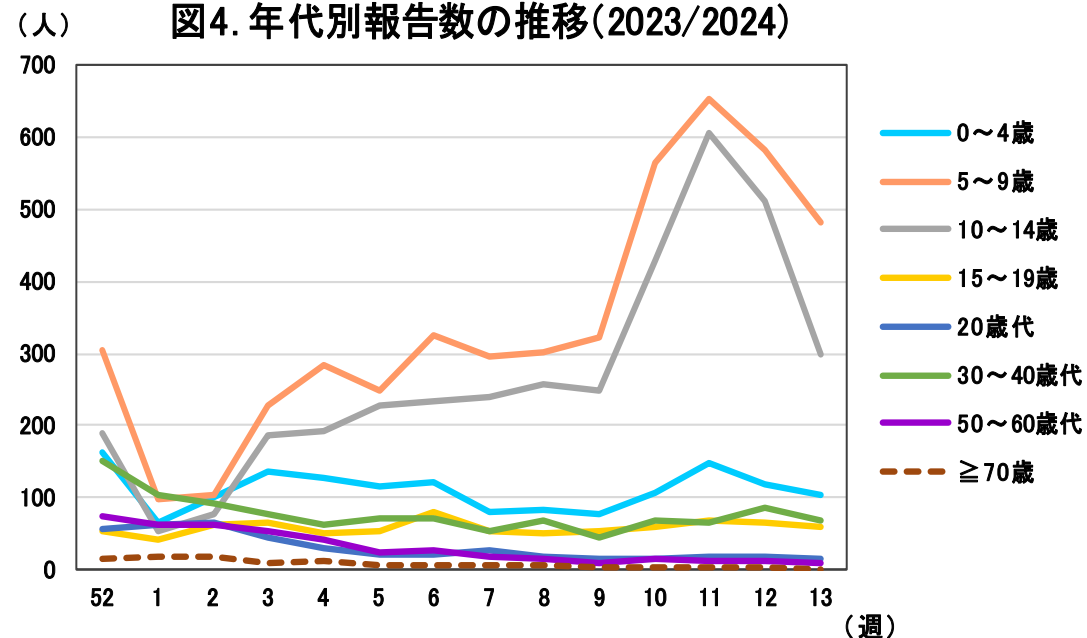


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第13週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が85%を占め、先週（87%）とほぼ同等であった。
 - 年代別報告数の推移（図4）では、すべての年代において先週と比較して減少または横ばいであった。
 - インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は第13週に報告がなく、春休みに入った影響と考えられた。
- 富山県インフルエンザ関連情報HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第12週)

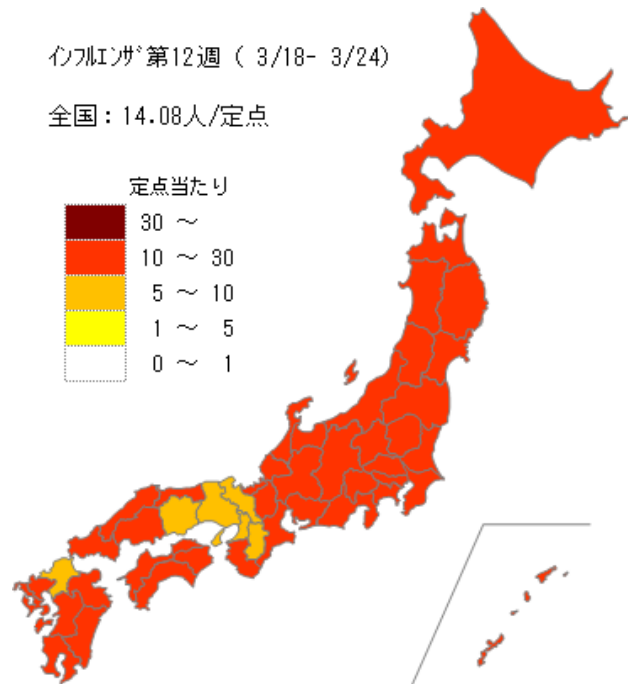
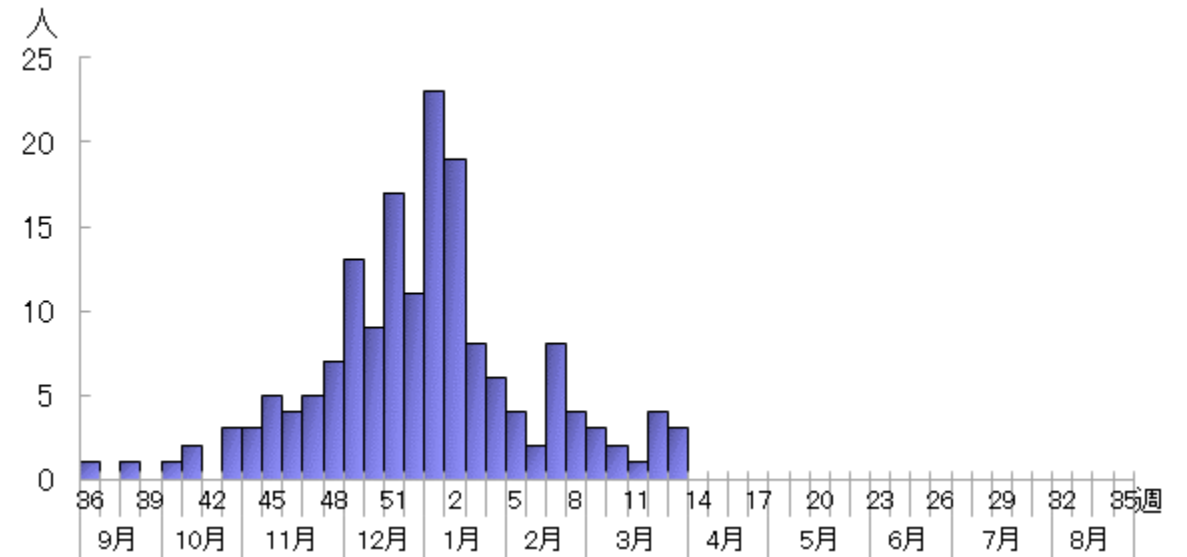


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第13週)



- 全国では第12週に14.08人/定点となり、第10週（17.26）から減少した。都道府県別（図5）では、41都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第13週に3例（10歳未満1例、10歳代2例）の報告があった。
- 県内のインフルエンザ定点の患者報告数は先週に引き続き減少した。また、B型の検出割合が今週94.0%となり、先週（91.7%）より増加した（[富山県感染症発生動向速報2024年第13週](#)）。小児を中心にB型による感染が拡大しており、学校等の再開後の感染拡大が懸念される。引き続き今後の発生動向を注視する必要がある。